

DC5001DT

取扱説明書

No.02M18C

はじめに

■本書について

このたびは、d'Action 360 Sをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本書は、d'Action 360 S（以下、本製品という）をご使用いただくためのガイドブックです。

本製品を正しく安全にご使用いただくために、本書をよくお読みになり、内容を理解された上でご使用ください。

本書はお読みになった後も、すぐに取り出せる場所に保管し、ご使用中に分からないことや不具合やトラブルが起きたときにお役立ててください。



■免責事項について

本製品の使用や故障によって生じた損失、および記録された映像やデータの損傷などによる損害については、当社はその責任を一切負いません。

あらかじめご了承ください。

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本製品の誤った取付け、使用による事故などの責任は一切負いかねますのでご了承ください。

d'Action 360 Sの特長

■360° レンズ2つで全方位を録画

万が一のアクシデントが起きた場合、前方だけでなく、側方や後方、運転手の状況などもあわせて確認できます。



■前方をクリアに記録する フロント録画機能

全天球録画を行いつつ、前方のみ切り取ったフルHD約200万画素の映像を同時に記録します。

フロント録画機能はドライブモードと、駐車監視モードの常時録画モードで使用可能です。（動作モードはP.27をご確認ください）



全天球録画（約410万画素）



フロント録画（約200万画素）

d'Action 360 Sの特長

■4つの動作モード

<ドライブモード>

ドライブレコーダーとして動作するモード。エンジンをかけると自動で電源がONになり、常時録画を開始します。



<駐車監視モード>

エンジンを切っている時、駐車監視カメラとして動作するモード。エンジンを切った約1分後から駐車監視を開始します。



<ドライブアクションモード>

車載のビデオカメラとして、手で撮影を楽しむモード。録画ボタンの長押しまたはアプリの操作で、ドライブモードから切り替わります。



<アクションモード> ※要別売オプション

車外に持ち出して撮影を楽しむモード。バッテリーパックを入れて電源ボタンを長押しすると電源がONになります。



d'Action 360 Sの特長

■再生はスマートフォンまたはパソコンで

メモリーカードに保存された撮影データは、専用スマートフォンアプリまたは専用パソコンソフトで再生できます。最新の動作確認端末やダウンロードについては下記のWEBサイトにてご確認ください。

<https://daction.carmate.jp/support/>



■その他

- ・駐車監視モード中、衝撃を検知すると光る威嚇LED機能付き
- ・GPS搭載で車速や位置情報も記録する
- ・VCCI準拠のノイズ対策済み

■オプション

- ・バッテリーオプション (DC101DDT)
バッテリーパックやレンズカバーなどのセット。車外に持ち出しての撮影が可能です。
- ・専用microSDカード 32/64/128GB (DC3/4/5)
d'Action 360シリーズ専用のmicroSDカード。

もくじ

はじめに	1	便利な機能	42		
d'Action 360 Sの特長	2	-MANUALフォルダのメモリー残量をチェックする-			
安全にお使いいただくために	6	-バッテリー残量をチェックする-			
事故が起こった際は	12	-駐車録画お知らせ機能-			
セット内容	13	-LED照射機能-			
はじめに準備すること	15	-エラー通知機能-			
取付け	16	カメラの設定を変更する	44		
撮る	27	-スマートフォンから変更する-			
-ドライブモード-		-パーティションタイプを変更する-			
-ドライブアクションモード-		電圧監視機能	47		
-駐車監視モード-		駐車監視モードへの切り替え停止	48		
-アクションモード-		フォーマットする	49		
撮影データを再生する	36	リセット(初期化)する	50		
-スマートフォンで再生する-		ファームウェアアップデートする	49		
-パソコンで再生する-		-スマートフォンからアップデートする-			
撮影データを削除する	41	-パソコンからアップデートする-		LED表示内容	52
-スマートフォンで削除する-		故障かなと思ったら	53		
-パソコンで削除する-		仕様	57		

安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただき、お客様や周りの方、物への被害を防ぐため、必ずお読みください。

注意事項の定義

本書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。各々の定義（意味）を十分に理解された上で、お取扱ください。

-  誤った取扱いをすると、死亡や重症などを負う可能性が想定されるもの
-  誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されるもの
-  誤った取扱いをすると、法律違反となる可能性が想定されるもの
-  取扱いにおいて知っていると有益な情報

安全上お守りいただきたいこと

-  破損や故障など、異常な状態のまま使用しないこと。発煙、異音、異臭などが発生した場合は、ただちに使用を中止してください。事故や火災の原因となります。
-  走行前に取付状態を確認すること。脱落、落下などによりケガや事故の原因となります。
-  動作確認のための急発進や急ブレーキは行わないこと。ケガや事故の原因となります。
-  病院内や航空機内など、使用が禁止されている場所では使用しないこと。ペースメーカーや医療用電気機器などの誤作動の原因となるおそれがあります。
-  電源コードや各端子部のほこりや汚れはよく拭いて取り除いてください。接触不良などによる感電や火災の原因となります。
-  長時間使用しない場合は電源ケーブルをカメラ本体から外してください。車両バッテリーの放電や火災が起きるおそれがあります。また、長期間に渡って本製品を密閉された空間、炎天下、高温な環境に放置すると、火災や故障の原因となります。
-  本製品は防じん、防滴、防水仕様ではありません。水をかける、濡れた手で操作する、異物を入れるなどの行為は行わないでください。感電や火災、故障の原因となります。

安全にお使いいただくために



本製品は、以下の機器と同じ周波数帯（2.4GHz帯）を使用しています。

- ①電子レンジなどの産業・科学・医療用機器など
- ②工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- ③特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

本製品を使用するには、上記の機器や無線局と電波干渉するおそれがあるため、以下の事項に注意してください。

1. 本製品を使用する前に、近くで上記の①～③の製品が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局（②）に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品を停止させてください。



本製品内に結露が生じた場合は、使用しないでください。特に低温から高温に移動したときに、結露が発生しやすくなり、故障や発熱の原因となります。



本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。



磁石などの磁気を帯びたものを本製品の近くに置かないでください。故障やデータ損傷の原因となります。



本製品の穴やすき間にピンや針金などの金属を入れないでください。感電や故障の原因となります。



運転者は走行中に操作および注視をしないこと。法律で禁止されています。また事故の原因となりますので、絶対に行わないでください。



本製品は日本、アメリカ、香港でのみ使用が認められています。それ以外の国や地域では法律に抵触するおそれがありますので使用しないでください。

This product is for use only in Japan, the US, and Hong Kong.



分解や修理、改造は行わないこと。感電や火災、故障の原因となります。



本製品に貼付けてある技術適合証明ラベルをはがさないこと。ラベルのない製品を使用することは、法律で禁止されています。

取付けについて



エアバッグの動作を妨げる場所には取付けや配線を行わないこと。動作したエアバッグによる事故やケガ、またはエアバッグが正常に動作しない場合があります。



取付けは、本書またはディーラー取付けマニュアルに従って正しく行うこと。また、走行時や検査時にはカメラ本体をマウントから取外さないでください。誤った取付けは道路運送車両法の保安基準に違反する場合があります。また事故の原因となります。



ラジオやカーナビなど、他の電化製品と電波干渉する場合があります。電波干渉した場合はカメラ位置を変更してください。

安全にお使いいただくために

電源について



電源ケーブルを外す際は、必ずコネクタ部分を持って行ってください。電源ケーブルが損傷すると、感電および火災の原因となります。



DC12V / 24V マイナスアース車以外では使用しないでください。故障の原因となります。



本製品に備わっている4つのモードは、電源供給源を認識することで切り替わります。そのため、市販のUSBケーブルやUSB電源ソケットを使用すると動作しない場合があります。必ず本製品の付属品またはオプション品を使用してください。



一部の車両では、エンジンを停止してもカーソケットに常時電源が供給されるものがあります。その場合は、降車時に電源ケーブルを抜いてください。



本体の電源をONにしてから、録画の開始まで最大約15秒かかります。
(ただしカメラ本体が動作温度範囲を超えている場合、さらに時間を要します。)



一部のアイドリングストップ車では、再始動時の電源を確保するため供給電圧が低下することがあります。これにより本製品への電源供給が停止する場合があります。

カメラについて



ダッシュボードなど温度が上昇する場所に放置しないでください。変形および火災の原因となります。



長時間の使用によりカメラ本体が高温になった場合は、直接手で触れないでください。やけどの原因となります。



清掃の際、研磨剤入り洗剤、アルコール、有機溶剤入りの洗浄液を使用しないでください。



レンズに直射日光を長時間当てないでください。故障の原因となります。



本製品は電子部品の特性上、使用条件によりカメラの表面および内部温度が高くなる場合があります。



動作温度範囲を超えた場合、製品保護のため動作を停止します。
動作が停止した場合は、カメラの温度を下げてから使用を再開してください。



レンズ表面に泥や砂、指紋などの汚れが付着したときは、付属のレンズクロスまたは、繊維くずの出ない乾いたきれいな布で拭取ってください。



スマートフォンとカメラが無線LANで接続中は、他の無線LAN接続のサービスは切断されます。

安全にお使いいただくために

GPSなどについて

-  GPSなどの電波が受信できない場所では、自車位置および自車速度を記録することはできません。
-  GPSなどの電波は、周囲の状況や地理的要因によって受信しにくい場合や受信できない場合があります。
-  GPS衛星は米国国防省によって管理されており、故意に精度が変更されることなどがあります。
-  本製品の近くにGPS機能を持つ製品やVICS受信機などを設置しないでください。それらの機器や本製品が誤作動を起こす可能性があります。
-  テレビアンテナの近くで使用すると、テレビ受信感度の低下、ちらつき、ノイズの原因となる可能性があります。
-  周囲に障害となる物を設置しないでください。GPSなどの電波受信に悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  電源起動時はGPSなどの電波を受信するまでに時間がかかります。受信環境、気象条件、車両条件、製品位置により数十秒から数分かかる場合があります。
-  フロントガラスにコーティングなどが施された車両は、GPSなどの電波を受信しにくい場合があります。

録画について

-  記録した映像やデータは、使用方法によっては他人の法的な権利を侵害する可能性があります。本製品で記録した映像やデータの内容、それによって起因した事項については、当社は一切責任を負いません。
-  本製品は事故の証拠としての効力およびナンバーや車種、色などの特定を保証するものではありません。
-  本製品はすべての状況下における録画を保証するものではありません。また、本製品の使用や故障によって生じた損失、および記録された映像やデータの損傷などによる損害については、当社はその責任を一切負いません。あらかじめご了承ください。
-  LED式信号機はちらついたり色の識別ができない場合があります。
-  録画性能や記録時間などは被写体や周辺環境などに影響され、変動する場合があります。
-  撮影シーンや取付環境によっては極端に暗くなったり、明暗を繰り返すなど、録画品質が低下することがあります。
-  レンズ表面や車両ガラス表面はいつもきれいにしておいてください。ほこりや異物による乱反射や屈折により、映像が乱れるおそれがあります。
-  暗い環境では、なるべく高品質で録画するために、車両のヘッドライトやフォグランプを点灯してください。

メモリーカードについて

-  本製品には、専用のメモリーカード（DC3/4/5）を使用してください。専用のメモリーカード以外を使用すると、データの損失や記録できない場合があります。
-  長時間の使用によりメモリーカードが高温になった場合は、直接手で触れないでください。やけどの原因となります。

安全にお使いいただくために

-  油がついた手や濡れた手でメモリーカードを触らないでください。損傷、故障の原因となります。
-  データのバックアップ、フォーマット、システムリセットおよび動作中は、絶対にメモリーカードを取出さないでください。データやメモリーカードが損傷し、使用できなくなるおそれがあります。
-  メモリーカードを落としたり強い衝撃を与えないでください。破損およびデータが損失するおそれがあります。
-  スロット内に異物を入れたり、端子部分を手で触らないでください。破損、誤動作、故障の原因となります。
-  メモリーカードを挿入するときは、必ず正しい向きでカチッと音がするまで差込んでください。無理に挿入するとメモリーカードを破損させる原因となります。
-  カメラ本体のアップデート中に本体の電源をOFFにしたり、電源ケーブルやバッテリーパック（別売）を外したりしないでください。故障の原因となります。
-  メモリーカードは消耗品であり、書き込み可能回数など製品寿命があります。1日2時間程度使用する場合は約1年半を目安に交換することをお勧めします。また、使用状況や使用環境により寿命は変化します。
-  メモリーカードを鋭利な物で傷を付けないでください。メモリーカードを破損させる原因となります。
-  以下の場合、メモリーカードをカメラ本体でフォーマットしてください。
 - 新規購入したメモリーカードを使うとき
 - 他のカメラやパソコンなどでフォーマットしたとき
 - 書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたとき
 - カード内のデータを全て消去したいとき
 - カメラから「フォーマットしてください」と音声が出たとき
-  メモリーカードは消耗品です。一定使用期間（回数）が過ぎるとメモリーセクターの一部が損傷されて正常な録画ができなくなることがあります。
-  重要なデータは、必ず他のデバイスにバックアップしてください。メモリーカード上のデータは上書きや消去される場合があります。
-  メモリーカードは、清潔な乾燥した涼しい場所で保管してください。

安全にお使いいただくために

駐車監視モードについて

- ⚠ 濡れた手で駐車監視ユニットを触らないこと。感電の原因となります。
- ⚠ 駐車監視ユニットはd'Action電源供給専用設計です。スマートフォンやタブレット、別売のバッテリーオプション等の充電やUSB機器には使用しないでください。
- ⊘ コードを傷つける、無理に曲げる、引張る、加工するなどは行わないでください。感電やショートによる発火原因となります。
- 📖 付属の駐車監視ユニットは本製品（DC5001DT）専用です。他の機器には接続しないでください。
- 📖 車両の使用状況や環境などによって車両バッテリーの状態は異なります。バッテリーの状態に合わせて電圧監視機能の設定を変更してください。電圧不足でエンジンがかからない場合は、バッテリーが劣化している可能性がありますので、新品バッテリーへの交換を推奨いたします。
- 📖 駐車監視モード中、暗い場所など環境によっては録画品質が低下することがあります。
- 📖 一部の車両では、エンジンを切った後もアクセサリ電源への電源供給が一定時間続きます。その場合、駐車監視モードに切り替わるまで時間がかかります。
- 📖 駐車監視ユニットの表面温度が高くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 📖 取付けには専門的な知識を必要とします。お買い求めになった販売店や専門的知識のある工場などで取付けを行ってください。
- 📖 駐車監視モードによる車両のバッテリー上がりに関して、当社はその責任を一切負いません。

その他

- ⊘ 記録した映像やデータは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- ⊘ ステッカーは、保安基準で貼付可能な位置が定められています。フロントガラスまたは運転席・助手席のサイドガラスには貼付しないでください。また、強粘着のため塗装面への貼付けにはご注意ください。

事故が起こった際は

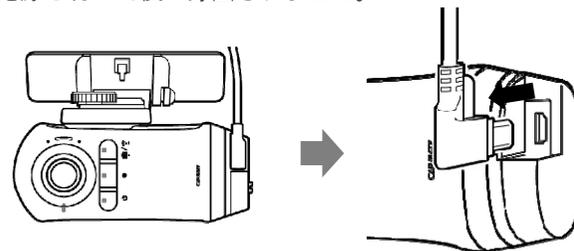
事故発生時に記録された映像データが上書きされないように、下記のいずれかの手順を行うことをおすすめします。

⚠ 注意

安全な場所に移動し、エンジンを停止してから行ってください。

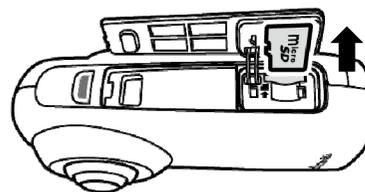
●カメラ本体から電源ケーブルを取外す

事故発生時のデータが上書きされないように、カメラ本体の電源を切ります。
※電源を切った後は録画されません。



●メモリーカードをカメラ本体から取出す

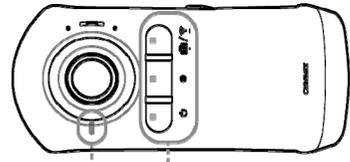
メモリーカードを交換するか、メモリーカード内に記録された映像データを他のデバイスにバックアップしてください。
※取出したメモリーカードは取扱いにご注意ください。（P15参照）



セット内容

本製品を使用する前に、必ず内容物を確認してください。

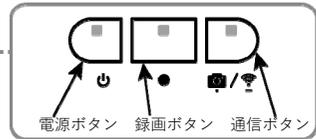
●カメラ本体



メモリーLED

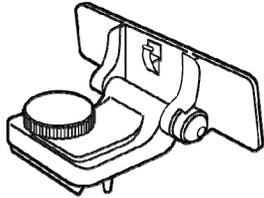
●フタ

※アクションモード(別売のバッテリーオプションが必要)で使う際に使用しますので、無くさないように保管してください。

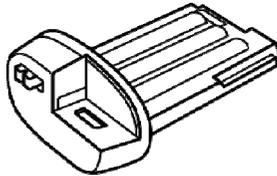


電源ボタン 録画ボタン 通信ボタン

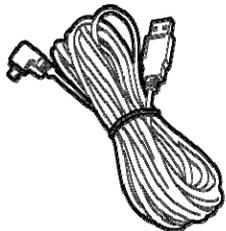
●マウント



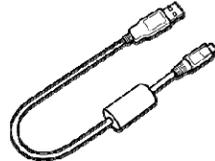
●キャパシタ



●電源ケーブル (4m)



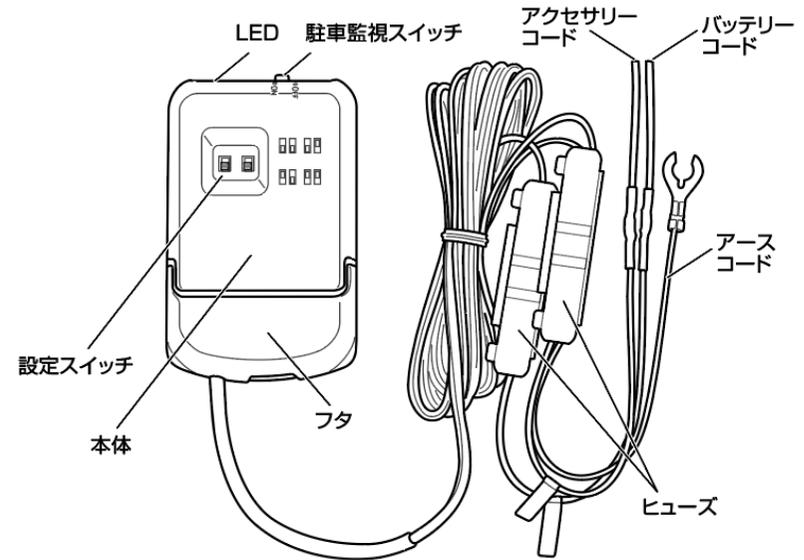
●通信ケーブル (0.3m)



P13

セット内容

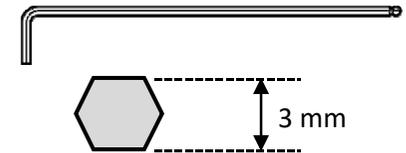
●駐車監視ユニット



●ケーブルクリップ 3個

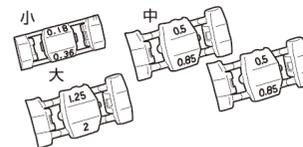


●六角レンチ



●ワンタッチコネクター

大1個、中(赤)2個、小(白)1個



●メモリーカード (microSDHC 32GB)

- ステッカー
- レンズクロス
- 脱脂用クリーナー
- クイックガイド
- 安全にお使いいただくために
- 取付けガイド

P14

はじめに準備すること

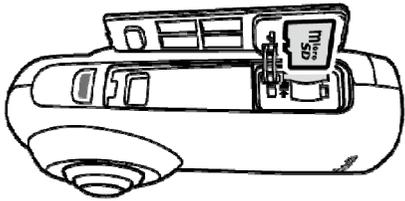
■メモリーカードをセットする

カメラ本体のカバーを開き、メモリーカードの向きに注意してカチッというまで確実に奥まで差込んでください。

カメラ本体のカバーは、全体を押し付けて浮きの無いように閉じてください。

<取出し>

メモリーカードを取出す際は、カードをカチッと音がするまで押込み、少し飛び出したらゆっくりとまっすぐに引き抜いてください。



▲注意

- データのバックアップ、フォーマット、システムリセットおよび動作中には、絶対にメモリーカードを取出さないでください。メモリーカードが損傷し、使用できなくなるおそれがあります。
- 重要なデータは、必ず他のデバイスにバックアップしてください。データによっては、本製品使用中に上書きされる場合があります。
- メモリーカード内に、本製品以外で記録されたデータを保存しないでください。正しく動作しない場合があります。
- メモリーカードには向きがあります。正しく装着していないと、メモリーカードの破損や誤動作の原因となります。
- メモリーカードの取出しは、必ず本製品の電源がOFFになっていることを確認してから行ってください。ONの状態では取出すとメモリーカードや保存データを破損させる原因となります。
- 長時間の使用によりメモリーカードが高温になった場合は、直接手で触れないでください。やけどの原因となります。
- メモリーカードを鋭利な物で傷を付けないでください。メモリーカードを破損させる原因となります。

取付け

■準備するもの

- ・本製品のセット内容（フタは別売のDC101DTT使用時に必要です）
- ・メモリーカード（専用microSDカードをカメラに入れておく）
- ・スマートフォン（専用アプリをインストールしておく）

■スマートフォンに専用アプリをインストールする

本製品の取付けおよび撮影した動画を確認するには、専用アプリのインストールが必要です。

App Store または Google Play ストアにて専用アプリをインストールしてください。



■取付けの流れ

以下の手順で進めます。

1. キャパシタを差込み、マウントに取付ける
2. 駐車監視ユニットを取付ける
3. エンジンをかけ、カメラとスマートフォンを接続する
4. スマートフォンでリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置と振り角度を決める
5. 振り角度を固定し、カメラを貼付ける
6. 駐車監視ユニットを貼付ける
7. 配線する

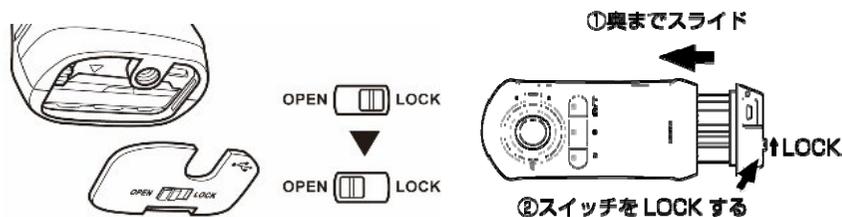
取付け

1. キャパシタを差込み、マウントに取付ける

1-1. フタのロックを解除し、フタを本体から外す

※フタはアクションモードで使う際に使用しますので、無くさないように保管してください。

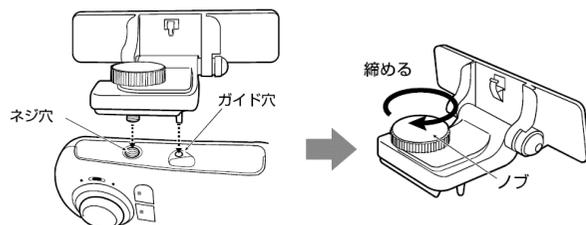
1-2. キャパシタをカメラに差込み、ロックする



1-3. マウントを装着する

①ネジ穴とガイド穴を合わせる

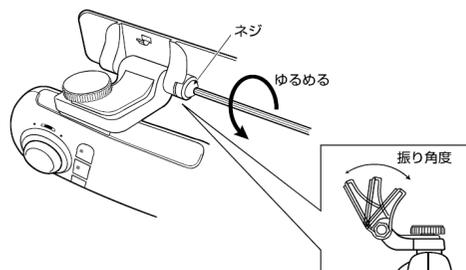
②ノブを回し、締める



※手順1-1のキャパシタを先にセットしないと、ガイド穴は開きません。

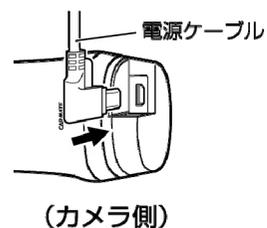
※カメラをマウントから取外す際は、②→①の順で行ってください。

1-4. 六角レンチを使ってマウントのネジをゆるめ、振り角度を調整できる状態にする



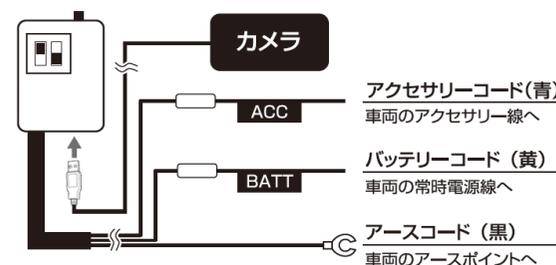
P17

1-5. カメラ側の電源ケーブルを接続する



2. 駐車監視ユニットを取付ける

<配線概要図>



⚠注意

常時およびアクセサリの電源を取る際は、必ずテスターで確認してください。また、アースは必ず車両のアースポイントでお取りください。

2-1. アースコード(黒)を、車両の金属部分を固定している無塗装のボルトに共締めする

⚠注意

- アースが不完全だと動作不良のおそれがあります。正しく取付けてください。
- オーディオやナビゲーションなど、他の電装品と同じボルトにアースを取付けないでください。機器が誤作動したり、オーディオのメモリーが消失したりするおそれがあります。

2-2. バッテリーコード(黄)を、エンジンON/OFFに関わらず常に車両から+12V/+24V電源が供給されるコードへ配線する

※コードの加工については次ページ参照。

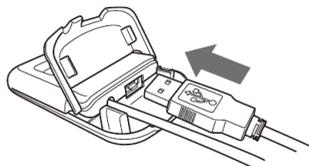
2-3. アクセサリコード(青)を、車両のアクセサリがOFFのときに0V、ONのときに+12V/+24Vになるコードへ配線します。

※コードの加工については次ページ参照。

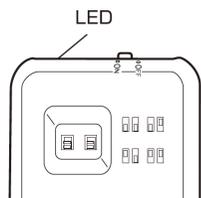
P18

取付け

2-4. 駐車監視ユニットのフタを開け、電源ケーブルを差込んだ後、フタを閉じる（右図）



2-5. エンジンをかけ、カメラおよび駐車監視ユニットのLEDが点灯することを確認する



■コードの加工について

駐車監視ユニットのバッテリーコードおよびアクセサリコードは、配線する車両側のコードの太さに応じて加工を行ってください。

※太さの異なるコード同士で配線すると接触不良や断線の原因となります。

車両側のコードが太い場合 …そのまま接続する



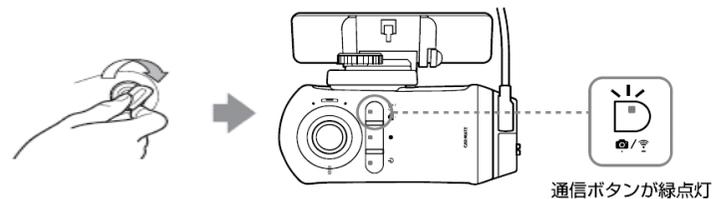
車両側のコードが細い場合 …本製品のコードをニッパーなどで切断し、適したワンタッチコネクターを使用して接続する



P19

3. エンジンをかけ、カメラとスマートフォンを接続する

3-1. エンジンをかけ、カメラの / ボタンが点灯することを確認する



3-2. スマートフォンの設定画面から、「Bluetooth」をOFFにする
※OFFにすることで、無線LANの接続が安定しやすくなります。



3-3. スマートフォンの設定画面から、「Wi-Fi」をONにする



メモ スマートフォンとカメラを無線LANで接続中は、他の無線LAN接続のサービスは切断されます。

3-4. 「dAction360」で始まるSSIDを選択し、パスワードを入力する

〈初期設定値〉
SSID: dAction360_xxxxxxx
パスワード: 12345678

※SSIDとパスワードは変更可能です。



P20

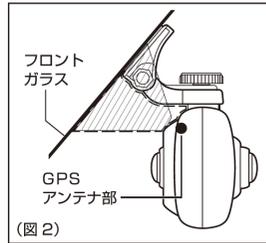
取付け

4. スマートフォンでリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置と振り角度を決める

4-1. 取付位置の条件を確認する

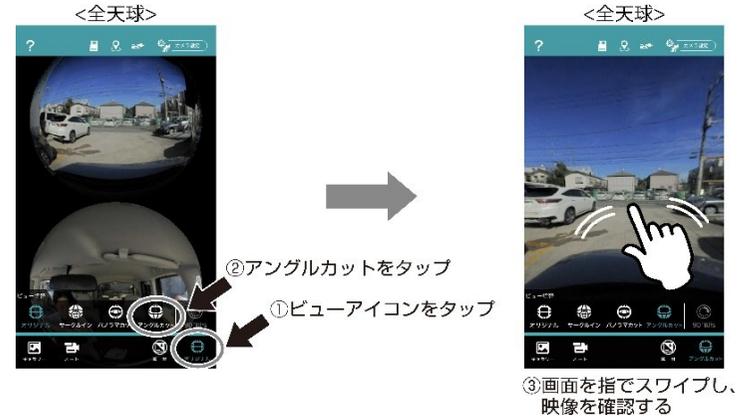
下記項目を全て満たすように取付け・取回し位置を確認してください。

- フロントガラスの上部20%の範囲内に入ること (図1)
- 運転時の視界や操作を妨げないこと
- ルームミラーやエアバッグの動作を妨げないこと
- カメラのレンズがワイパーの拭取り範囲内に入ること
- ガラスにプリントされている熱線やアンテナ、ぼかしなど表面に凹凸がある部分を避けてマウントを貼付けること
- 安全運転支援システムなどのカメラを装着している場合はその映像範囲内に映りこまないこと
- フロントガラスとGPSアンテナ部の間 (図2の斜線部) にケーブルや金属物が無いこと
- サンシェード等の日除けを使用する際は、カメラ本体をフロントガラスとサンシェードの間に挟み込まないように設置すること (熱がこもりやすく、カメラ本体の故障や両面テープ剥がれの原因となります。



4-2. 専用アプリを起動し、リアルタイムビュー映像を表示する

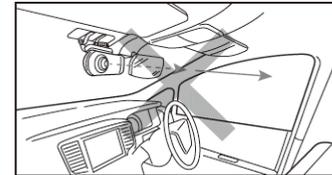
4-3. 全天球のリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置・振り角度を確認する



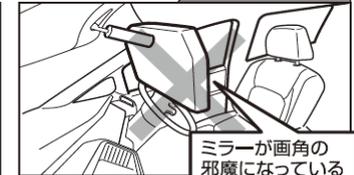
【確認ポイント】

- 画角の妨げになる物の近くに取付けないでください。

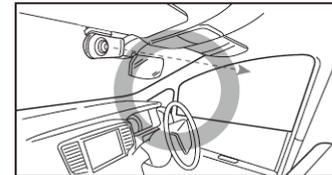
▼NG例：ミラーが近い



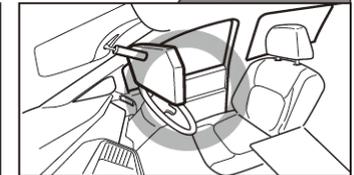
全天球映像



▼OK例：側方の状況がよく見える



全天球映像

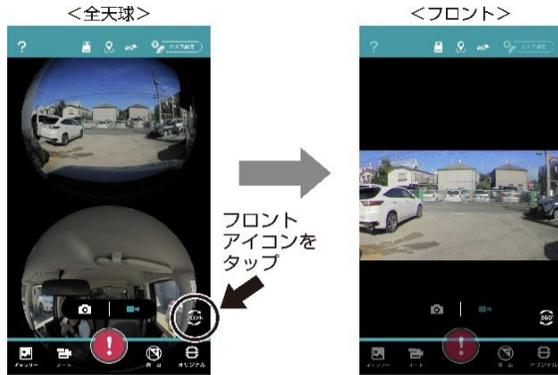


取付け

4-4. フロントのリアルタイムビュー映像を見ながら、取付位置・振り角度を確認する

注意

フロント映像を表示している間はすべての録画が停止するため、このまま走行しないで下さい。



【確認ポイント】

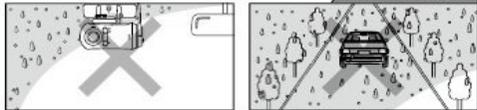
●フロント映像で映っている範囲がクリアに記録される範囲です。クリアに記録したい範囲がフロント映像で映っているか確認してください。

▼NG例：映像が傾いている、上を向きすぎている

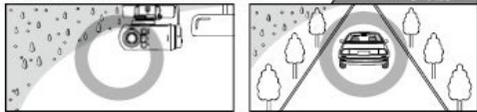


●フロント映像がワイパー拭取り範囲内に入っていること

▼NG例：ワイパーの拭取り範囲外

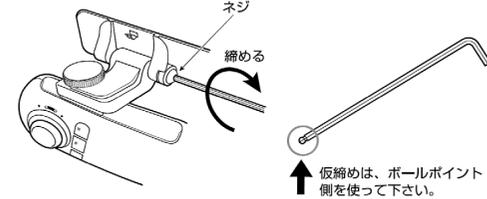


▼OK例：ワイパーの拭取り範囲内



5. 振り角度を固定し、カメラを貼付ける

5-1. 振り角度が決まったら、六角レンチでマウントのネジを仮締めする



5-2. 取付位置が決まったら、貼付面をきれいにする

付属の脱脂用クリーナーを使用してフロントガラスの汚れや油分をよく拭取り、乾燥させてください。

5-3. マウントを貼付ける

エンジンを切った後カメラをマウントから一旦取外し、マウントのみをフロントガラスに貼付けます。

5-4. マウントをフロントガラスに押付ける

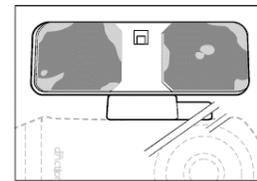
マウントを指で強く押し、両面テープをフロントガラスに密着させます。

注意

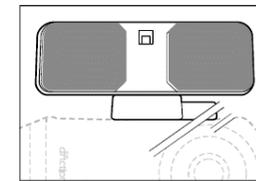
マウントを強く押付けた後、両面テープの貼付け面がフロントガラスに均一して密着しているか、車外から見て確認してください。

貼付け面に圧着ムラがある場合は、再度マウントを強く押して密着させてください。

▼NG例：圧着ムラや気泡が入っている



▼OK例：均一に密着している



※粘着力を安定させるため、24時間以上放置してください。なお、粘着力が低下するため貼直しはできません。

※カメラ本体装着前の走行はお控えください。

5-5. 六角レンチでマウントを本締めする



取付け

6. 駐車監視ユニットを貼付ける

駐車監視ユニットのハクリ紙をはがし、スイッチ操作が可能な場所に貼付ける

⚠注意

- 貼付面に汚れや油分がある場合、中性洗剤でよく拭取り、水拭きした後、乾いた布で拭取ってください。
- 駐車監視ユニットは剥がれないように、しっかり取付けてください。脱落により運転を妨げるおそれがあります。
- 以下の条件を満たす場所に取付けてください。
[運転操作を妨げない、エアバッグの動作を妨げない、水滴が容易に付かない、直射日光が当たらない。]
- 粘着力を安定させるため、24時間以上放置してください。
なお、粘着力が低下するため、貼直しはできません。
- 電波干渉を抑制するため、取付推奨位置に取付けてください。



メモ

電圧監視機能の設定値変更や駐車監視モードへの切り替え停止を行いたい場合は、P47,48の手順をご参照ください。

7. 配線する

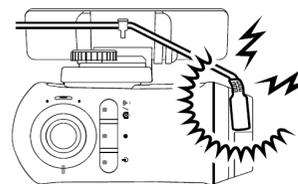
7-1. カメラをマウントに装着し、電源ケーブルを接続する

マウントフックに電源ケーブルを通し、余裕をもたせた取回しでカメラに接続します。



⚠注意

電源ケーブルやカメラのコネクタ部に無理な力が掛からないように取回してください。カメラが正しく動作しなくなるおそれがあります。



7-2. 配線し、レンズ部をレンズクロスできれいに拭く
指紋が付いていることが多いので、しっかりと拭取ってください。

撮る

動作モードごとに、使用できる録画機能は異なります。

ドライブモード ⇒詳しくはP.28へ

常時録画	上書き 全天球+フロント	エンジンをかけてから切るまで録画し続ける
衝撃録画	上書き 全天球+フロント	衝撃検知するとその前後を録画する
手動録画	全天球+フロント	● ボタンを押すとその前後を録画する
静止画撮影	全天球+フロント	📷/📶 ボタンを押すと静止画を1枚撮る

ドライブアクションモード ⇒詳しくはP.30へ

手動録画	全天球	● ボタンを押してから再度押すまでを録画する
静止画撮影	全天球	📷/📶 ボタンを押すと静止画を1枚撮る

駐車監視モード ⇒詳しくはP.32へ

駐車常時録画	上書き 全天球+フロント	エンジンを切ってから最大30分間録画し続ける
駐車衝撃録画(前後)	上書き 全天球	駐車中に衝撃検知するとその前後を録画する
駐車衝撃録画(後)	上書き 全天球	駐車中に衝撃検知するとその後を録画する

アクションモード ⇒詳しくはP.35へ

手動録画	全天球	● ボタンを押してから再度押すまでを録画する
静止画撮影	全天球	📷/📶 ボタンを押すと静止画を1枚撮る

上書き：フォルダの容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。

撮る -ドライブモード-

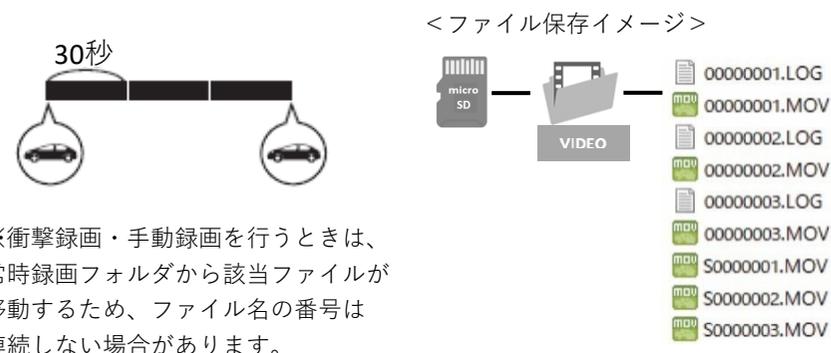
エンジンをかけるとカメラの電源が自動でONになり、常時録画を開始します。

※カメラの電源がONになってから常時録画を開始するまで、最大約15秒かかります。

■常時録画

エンジンをかけてから切るまで連続で録画します。

30秒ごとに1ファイルずつ記録され、フォルダ容量が一杯になると古いデータから順に上書きされます。

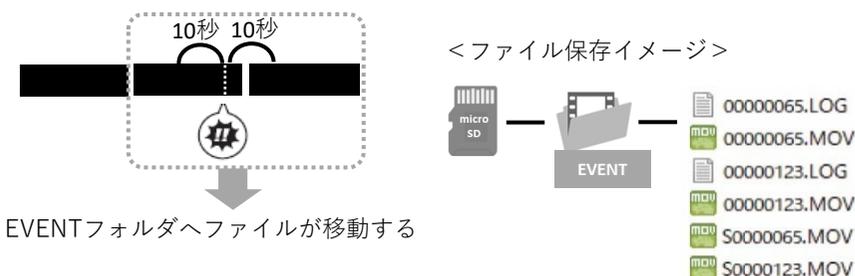


※衝撃録画・手動録画を行うときは、常時録画フォルダから該当ファイルが移動するため、ファイル名の番号は連続しない場合があります。

■衝撃録画

衝撃を検知すると前10秒+後10秒を含む最大2ファイルが、常時録画フォルダから移動され、記録されます。

フォルダ容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。



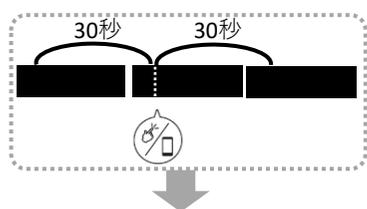
EVENTフォルダへファイルが移動する

※手動録画中は衝撃検知しても、手動録画が優先されます。

撮る -ドライブモード-

■手動録画

カメラ本体の ● ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、前30秒＋後30秒を含む最大3ファイルが、VIDEOフォルダから移動され記録されます。フォルダ容量が一杯になると録画を停止します。



MANUALフォルダへファイルが移動する

<ファイル保存イメージ>



※衝撃録画中は衝撃録画が優先されるため、手動録画は開始できません。

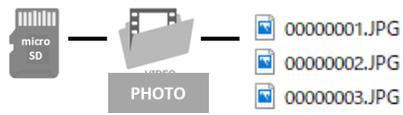
■静止画撮影

カメラ本体の ●/● ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、静止画1枚を撮影します。

フォルダ容量が一杯になるとそれ以上撮影することはできません。



<ファイル保存イメージ>



※手動録画中は静止画撮影できません。

※静止画撮影時は、一時的に常時録画を停止するため、撮影までにタイムラグが発生します。撮影終了後は、自動で常時録画復帰します。

ドライブモード中のLED	LED表示	動作
	緑点灯：無線 LAN ON 消灯：無線 LAN OFF	ボタン短押し：静止画撮影 ボタン長押し：無線 LAN ON / OFF
	緑点灯：常時録画中 赤点灯：衝撃／手動録画中	ボタン短押し：手動録画 ボタン長押し：ドライブアクションモードに切替え

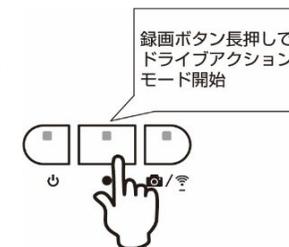
P29

撮る -ドライブアクションモード-

工場出荷状態では、エンジンをかけるとドライブモードで動作しますが、以下の手順を行うとドライブアクションモードで動作します。

<手順>

1. エンジンをかけ、ドライブモードで起動する
2. ● ボタンを長押しする
3. 少し待ち、「ドライブアクションモード開始」というモード切替の音声アナウンスを確認する



△注意

一度ドライブアクションモードに設定すると、カメラを再起動しても本モードで起動します。ドライブモードで録画する場合には、必ず設定を戻してください。

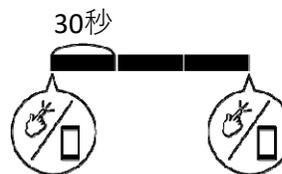
<ドライブモードに設定を戻す手順>

1. エンジンをかけ、ドライブアクションモードで起動する
2. ● ボタンを長押しする
3. 少し待ち、カメラがドライブモードで起動するのを確認する（電源、録画LEDが緑点灯します）

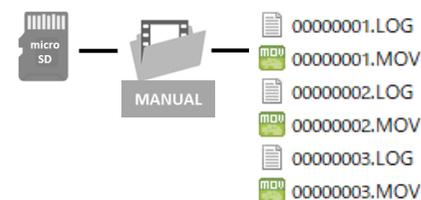
■手動録画

カメラ本体の ● ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、録画を開始／終了します。

30秒ごとに1ファイルずつ記録され、フォルダ容量が一杯になると録画を停止します。



<ファイル保存イメージ>



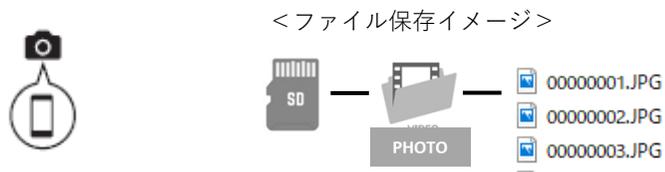
P30

撮る -ドライブアクションモード-

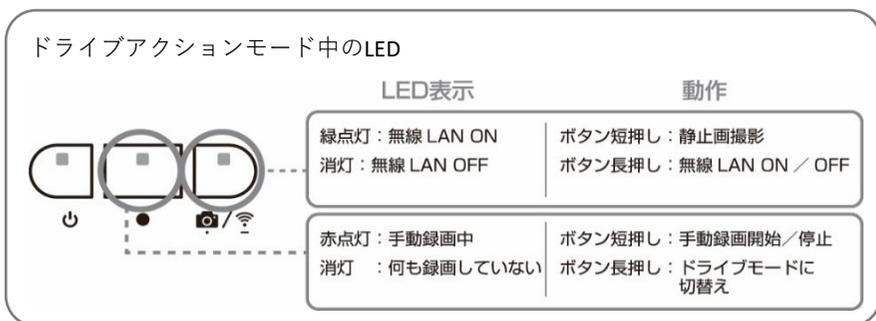
■静止画撮影

カメラ本体の / ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、静止画1枚を撮影します。

フォルダ容量が一杯になるとそれ以上撮影することはできません。



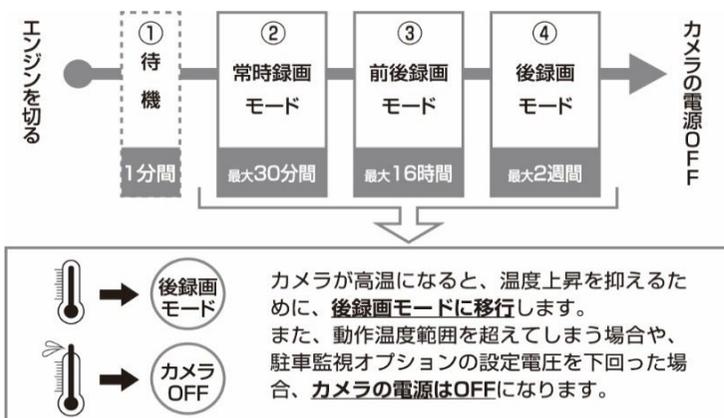
※手動録画中は静止画撮影できません。



撮る -駐車監視モード-

エンジンを切ると、カメラの電源が一旦OFFになり、その後駐車監視モードで起動します。

本モードは、下記のように動作します。



① 待機

ドライバーが降車する際の振動で録画することを防ぐために、エンジンを切ってから1分間は衝撃を検知しません。

② 常時録画モード

駐車常時録画と駐車衝撃録画（前後）を行うモードです。
最大30分間動作します。

③ 前後録画モード

駐車衝撃録画（前後）のみを行うモードです。
最大16時間動作します。

④ 後録画モード

駐車衝撃録画（後）のみを行うモードです。
最大2週間動作します。

車両バッテリーに負荷をかけないよう、②と③のモードをスキップすることが可能です。スマートフォンの専用アプリで、カメラ設定>
 駐車監視モードの「録画モード変更」から変更を行ってください。

撮る -駐車監視モード-

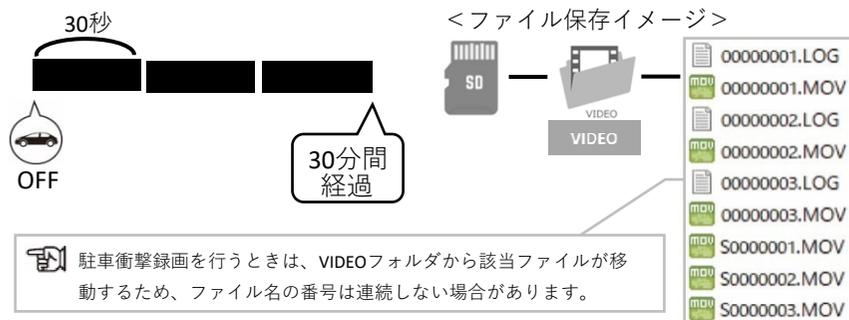
■常時録画モード

駐車常時録画と駐車衝撃録画（前後）を行うモードです。最大30分間動作します。

駐車常時録画：

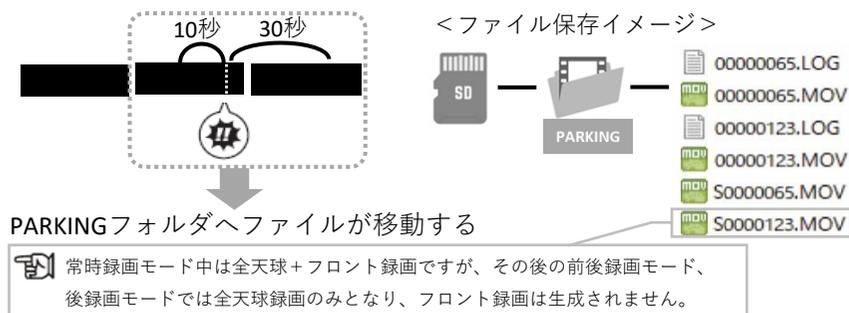
エンジンを切ってから最大30分間、VIDEOフォルダに連続で録画します。

30秒ごとに1ファイルずつ記録され、VIDEOフォルダの容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。



駐車衝撃録画(前後):

衝撃を検知すると前10秒+後30秒を含む最大3ファイルが、VIDEOフォルダから移動され、PARKINGフォルダに記録されます。PARKINGフォルダの容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。



撮る -駐車監視モード-

■前後録画モード

駐車衝撃録画（前後）のみを行うモードです。最大16時間動作します。

衝撃を検知すると前10秒+後30秒がPARKINGフォルダに記録されます。

フォルダ容量が一杯になると、古いデータから順に上書きされます。

<ファイル保存イメージ>

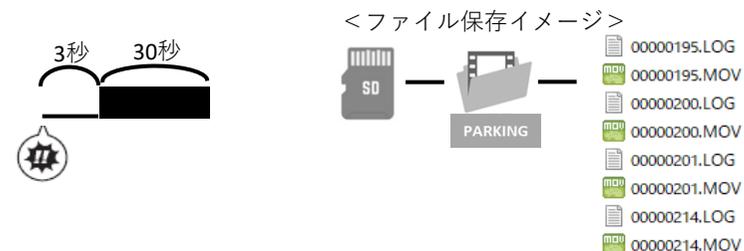


■後録画モード

駐車衝撃録画（後）のみを行うモードです。最大2週間動作します。

衝撃を検知すると、約3秒後から30秒間を録画します。

30秒で1ファイル記録され、フォルダ容量が一杯になると古いデータから順に上書きされます。



駐車監視モード中のLED



LED表示

緑点灯：常時録画中
赤点灯：衝撃録画中

緑点滅：常時録画モード
緑点滅：前後録画モード
消灯：後録画モード/電源OFF

撮る -アクションモード-

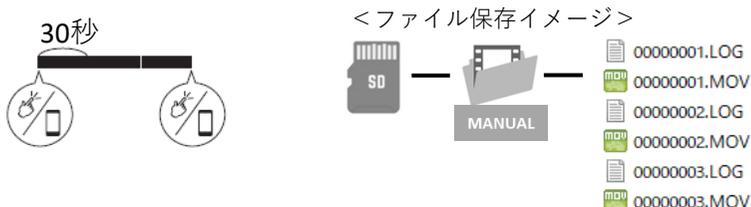
※別売のバッテリーオプションが必要です。

バッテリーパック（別売）を装着した状態で  ボタンを長押しすると、アクションモードで起動します。

■手動録画

カメラ本体の  ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、録画を開始／終了します。

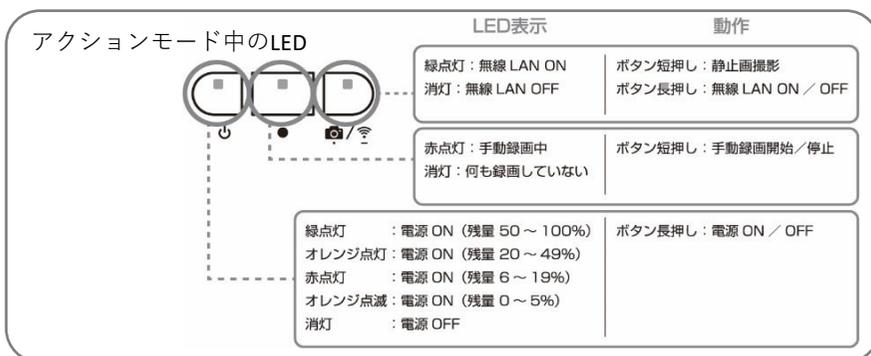
30秒ごとに1ファイルずつ記録され、フォルダ容量が一杯になると録画を停止します。



■静止画撮影

カメラ本体の  ボタンを押すか、スマートフォンからの操作で、静止画1枚を撮影します。

フォルダ容量が一杯になるとそれ以上撮影することはできません。



※手動録画中は静止画撮影できません。

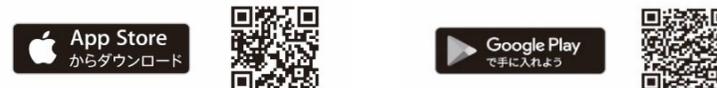
P35

撮影データを再生する

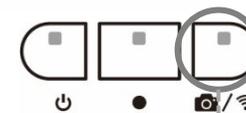
メモリーカードに保存された撮影データは、スマートフォンまたはパソコンで再生することができます。

■スマートフォンで再生する

あらかじめ、専用アプリ（無料）をインストールしておいてください。

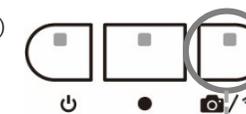


1. カメラの電源を入れ、無線LANをONにする
(ドライブモードの場合)
エンジンをかけると、無線LANも自動でONになります。



 ボタンが緑点灯

- (ドライブアクション／アクションモードの場合)
カメラを起動した後、無線LANボタンを長押しするとONになります。



 ボタン長押しで緑点灯

△注意 短く押すと静止画が撮影されます。

- (駐車監視モードの場合)

駐車監視モード中は、撮影データの再生はできません。

2. スマートフォンの設定画面から、「Bluetooth」をOFFにする



3. スマートフォンの「設定」から、「Wi-Fi」をONにする



P36

撮影データを再生する

3. 「dAction360」 から始まるSSIDを選択し、パスワードを入力する

〈初期設定値〉

SSID: dAction360_xxxxxxxx
パスワード: 12345678

※SSIDとパスワードは変更可能です。



4. 専用アプリを起動し、リアルタイムビュー画面の左下にある  ボタンをタップする



5. 再生したい録画種別を選択し(①)、再生したいファイルのサムネイルをタップする(②)

タップすると、ストリーミング再生(スマートフォンにダウンロードせずに再生)が始まります。



※ストリーミング再生では転送速度を上げるため、画像を粗くして表示しています。

※いずれかのサムネイルを長押しすると、選択したファイルをまとめてダウンロードすることができます。

撮影データを再生する

6. ストリーミング再生で映像を確認し、左下の  ボタンをタップする

ダウンロード



タップすると、カメラからスマートフォンへファイルのダウンロードが始まります。



※カメラ本体はスマートフォンと無線LANで直接通信するため、通信料はかかりません。

7. ダウンロード完了後、「スマートフォン」をタップし、ダウンロードファイル一覧を表示する

再生したいファイルのサムネイルをタップすると再生画面に移行します



△注意

ファイル一覧表示・ストリーミング再生・ダウンロードしている間はすべて録画が停止するため、そのままの状態で行きしないで下さい。

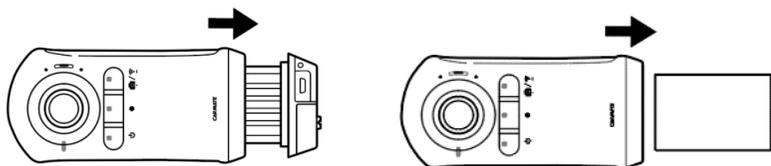
撮影データを再生する

■パソコンで再生する

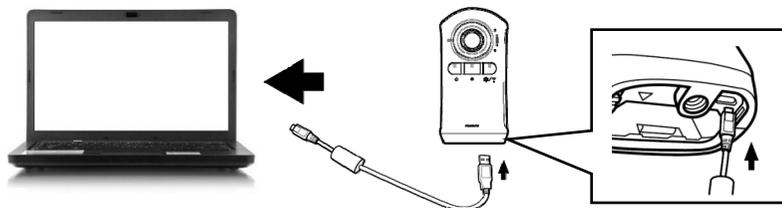
専用ソフトは下記WEBサイトよりダウンロードしてください。

<https://daction.carmate.jp/>

1. カメラからキャパシタやバッテリーバックを外す

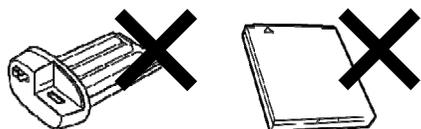


2. メモリーカードを挿したまま、カメラとパソコンを通信ケーブルで接続する



⚠ 注意

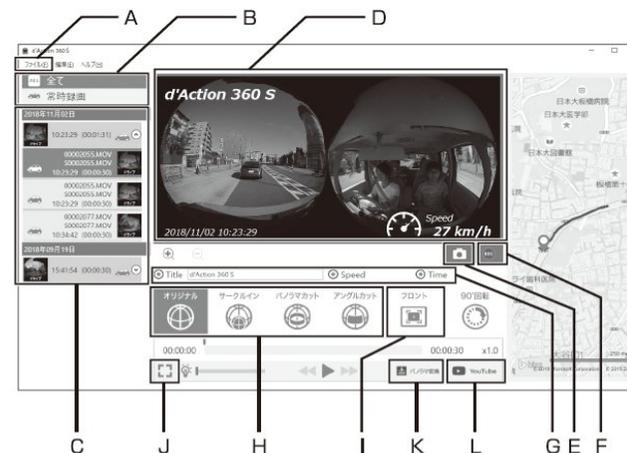
このとき、カメラにバッテリーバックやキャパシタが装着されたままではパソコンに認識されません。必ず外してからパソコンと接続してください。



3. 専用ソフトを起動し再生したいファイルが入っているフォルダを選択する

P39

4. 専用ソフトの画面に従って、再生したいファイルを選択し、再生する



- A・・・フォルダ選択ができます。
- B・・・録画種別で選択できます。
- C・・・再生可能なファイル一覧を表示します。
- D・・・再生画面です。
- E・・・再生画面に映している映像をキャプチャしてパソコンに保存できます。
- F・・・再生画面に映している映像をスクリーン録画してパソコンに保存できます。
- G・・・タイトルや速度・撮影日時の表示 / 非表示の切替えができます。
- H・・・4種のビューに切り替ええます。
- I・・・フロント録画の映像に切り替ええます。※デュアルレックしているファイルのみ。
- J・・・全画面表示できます。
- K・・・360°パノラマ変換した動画をパソコンに保存できます。
- L・・・360°パノラマ動画としてYouTubeにアップロードできます。

※各フォルダおよびファイルの作成日時、更新日時は世界標準時刻で記録されていますが、専用ソフトで再生すると、パソコンに設定されたタイムゾーンの日時になります。

P40

撮影データを削除する

1. カメラとスマートフォンを接続する(参照：P31)

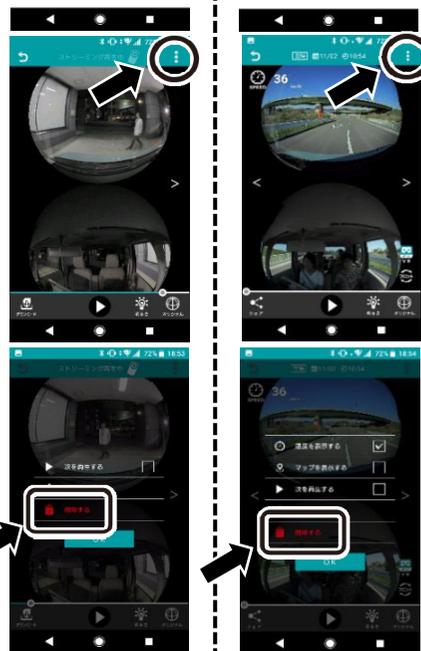
2. 専用アプリを起動し、リアルタイムビュー画面の左下にある  ボタンをタップする

3. 削除したい録画種別を選択し(①)、再生したいファイルのサムネイルをタップする(②)

※いずれかのサムネイルを長押しすると、選択したファイルをまとめて削除することができます。



4. 右上の  ボタンをタップする



5. 「削除する」をタップする

P41

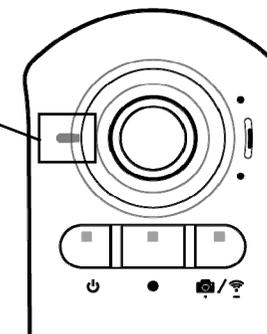
便利な機能

■MANUALフォルダのメモリー残量をチェックする

各モードの手動録画が保存されるMANUALフォルダにおけるメモリー残量をカメラ本体のメモリーLEDで表示します。

※常時録画や衝撃録画、駐車衝撃録画など、上書き可能なフォルダのメモリー残量は表示しません。

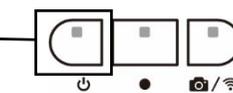
緑点灯	残量 50~100%
オレンジ点灯	残量 20~49%
赤点灯	残量 0~19%/未挿入
オレンジ点滅	メモリーカードエラー



■バッテリー残量をチェックする

装着されたバッテリーパックの残量をカメラ本体の  ボタンのLEDで表示します。

緑点灯	残量 50~100%
オレンジ点灯	残量 20~49%
赤点灯	残量 6~19%
オレンジ点滅	残量 0~5%



■駐車録画お知らせ機能

駐車監視モード中に駐車衝撃録画があった場合、次回にエンジンをかけたときに「駐車録画があります」という音声でお知らせします。

※カメラの操作音量を「消音」に設定すると、お知らせ音声は流れません。

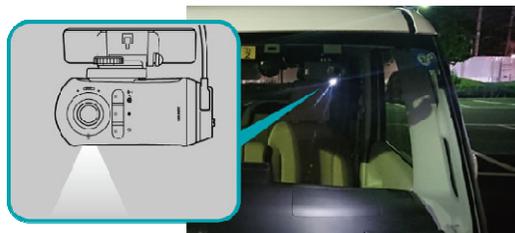
なお、カメラの操作音量を「大」「小」どちらに設定しても同じ音量で流れます。

P42

便利な機能

■威嚇LED照射機能（駐車監視モード）

駐車監視モード中に衝撃を検知すると、カメラ本体底面の白色LEDが点灯します。衝撃録画が終了すると消灯します。



■エラー通知機能

下記の重要なエラーが起きた場合、音声でお知らせします。

※カメラの操作音量を「大」「小」「消音」いずれに設定していても、通知されます。

音声	内容と対策
フォーマットしてください	フォーマットが必要となる量のデータを記録した →メモリーカードのフォーマットを行ってください。（P.49参照）
SDカードを確認してください	読み書き速度の遅い規格のメモリーカードが差込まれているか、規格表示の無いメモリーカードが差込まれています。 →専用microSDカード（DC3/4/5）をご使用ください。
SDカードが見つかりません	メモリーカードが挿入されていない/メモリーカードに異常がある →メモリーカードが挿入されているか確認してください
容量一杯です	カードフルエラー →メモリーカード内の手動録画ファイルまたは静止画撮影ファイルを削除するか、メモリーカードをフォーマットしてください。

※：メモリーカードをフォーマットするとデータが全て消去されます。

必要なデータはあらかじめパソコンなどにバックアップをとっておいてください。

カメラの設定を変更する

下記項目について、カメラの設定値をスマートフォンから変更できます。

（★：初期設定値）

●ドライブモード

衝撃検知感度	最高感度	★高感度	中感度	低感度	最低感度
WDR	★強	弱	OFF		

●ドライブアクションモード

記録画素数	3840×1920	★2880×1440		
撮影シーン	★オート	風景	スノー	白黒
WDR	★強	弱	OFF	

●駐車監視モード

衝撃検知感度	★高感度	中感度	低感度
LED照射	★ON	OFF	
録画モード	★常時録画から開始	前後録画から開始	後録画から開始
WDR	★強	弱	OFF

●アクションモード

記録画素数	3840×1920	★2880×1440	
撮影シーン	★オート	風景	スノー 白黒
WDR	強	★弱	OFF

●共通

操作音量	大	★小	消音
録音	★ON	OFF	
SSID・パスワード	★SSID：dAction360_XXXXXXX（Xの部分は英数字が入ります） ★パスワード：12345678		
言語	★日本語	英語	
パーティションタイプ	★ドライブ重視	アクション重視	

カメラの設定を変更する

■スマートフォンから変更する

1. カメラとスマートフォンを接続する（参照：P36の手順1～P37の手順3）
2. 専用アプリを起動し、右上の「カメラ設定」ボタンをタップし、設定変更したい項目をタップする



■パーティションタイプを変更する

用途に合わせてパーティションタイプ（各フォルダの割り当て容量）を変更できます。カメラ本体にメモリーカードを挿入し、電源を入れた後、スマートフォンアプリから設定変更を行ってください。

▲注意

設定を変更すると、メモリーカードは自動でフォーマットされ、全てのファイルが消去されます。

- ドライブ重視（初期設定値。常時録画を長時間記録できる設定です。）

録画機能	録画タイプ	32GB(同梱)	64GB	128GB
常時録画 + 駐車常時録画	全天球+フロント	約34分	約70分	約141分
衝撃録画	全天球+フロント	約11回	約22回	約46回
駐車衝撃録画 (常時録画モード)	全天球+フロント	約6回	約13回	約27回
駐車衝撃録画 (前後/後録画モード)	全天球のみ (約730万画素)	約27回	約55回	約112回
手動録画	全天球+フロント	約7分	約15分	約31分
	全天球のみ (約410万画素)	約11分	約24分	約49分
	全天球のみ (約730万画素)	約6分	約12分	約26分
静止画撮影	全天球のみ	約35枚	約72枚	約147枚

- アクション重視（手動録画を長時間記録できる設定です。）

録画機能	録画タイプ	32GB(同梱)	64GB	128GB
常時録画 + 駐車常時録画	全天球+フロント	約12分	約26分	約53分
衝撃録画	全天球+フロント	約11回	約22回	約46回
駐車衝撃録画 (常時録画モード)	全天球+フロント	約6回	約13回	約27回
駐車衝撃録画 (前後/後録画モード)	全天球のみ (約730万画素)	約27回	約55回	約112回
手動録画	全天球+フロント	約28分	約58分	約118分
	全天球のみ (約410万画素)	約44分	約90分	約182分
	全天球のみ (約730万画素)	約23分	約48分	約97分
静止画撮影	全天球のみ	約54枚	約109枚	約221枚

※上記数値は目安で、保証値ではありません。お使いの状況、被写体や周囲環境などの要因によって異なります。

電圧監視機能

車両のバッテリー上がりを防止するため、車両バッテリーの電圧値が設定値より約15分間連続して下回った場合に、車両バッテリーからの電源供給を停止し、動作を停止する機能です。

下記の手順で設定してください。

1. エンジンを切る
2. 駐車監視ユニットの設定スイッチを設定する

設定スイッチ



電圧	11.8V (23.6V)	12.0V (24.0V)	12.2V (24.4V)	★12.4V (★24.8V)
設定 スイッチ				

★：初期設定値

メモ

一般的な車両の場合、推奨設定値は12.0V（24.0V）です。
ただし下記のような場合には、車両バッテリーが弱っている可能性があります。
その場合は、車両バッテリーの交換をおすすめします。

- バッテリーの使用年数が長い
- 長時間エンジンをかけていない
- 多くの電装品が装着されている
- 寒冷地で使用している

3. エンジンをかけ、30秒ほどしたら再度エンジンを切る

※カメラが駐車監視モードで動作していたら、設定完了です。

駐車監視モードへの切り替え停止

本機能を使用すると駐車監視モードへの切り替えを停止することができます。
長時間使用しない場合などにご使用ください。

下記の手順で設定してください。

1. エンジンをかける
2. 駐車監視スイッチをOFFにする
※駐車監視ユニットのLEDが消灯することを確認してください。

LED 駐車監視スイッチ



3. エンジンを切る

※カメラが動作を停止していることを確認してください。

注意

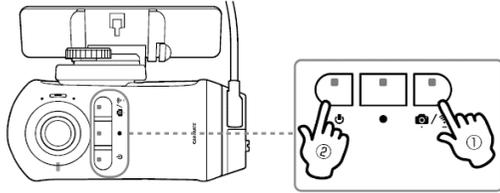
- 駐車監視モードへの自動切り替えを再開する場合は、エンジンをかけてから駐車監視スイッチをONにしてください。
- エンジンをかけた状態で駐車監視ユニットのLEDが点灯していれば、駐車監視モードへ切り替え可能な状態です。

フォーマットする

メモリーカードのフォーマットを行います。カメラから「フォーマットしてください」という音声が出た場合は、カメラ本体またはスマートフォンアプリでフォーマットしてください。

■カメラ本体でフォーマットする

ドライブ / アクションモードでカメラを起動し、/ ボタンを押しながら①、 ボタンを10回短押し②してください。



■スマートフォンでフォーマットする

カメラとスマートフォンを無線LAN接続し、専用アプリのカメラ設定画面から「メモリーカードフォーマット」を選択してください。



⚠ 注意

フォーマットすると、全てのファイルが消去されます。あらかじめパソコンなどにデータをバックアップをとっておいてください。

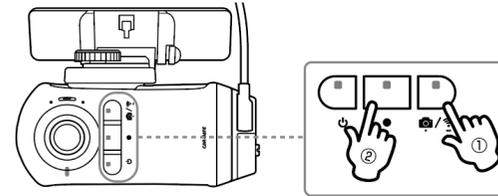
P49

リセット (初期化) する

全ての設定値が初期化されます。

駐車監視モード以外でカメラが起動している状態で、/ ボタンを押し①ながら  ボタンを5回短押し②してください。

※リセットしてもメモリーカード内のデータおよびカメラ本体のバージョンはリセットされません。



⚠ 注意

リセット操作をすると、3つのLED(電源、録画、通信ボタン)がオレンジ点滅した後にカメラが再起動します。カメラが完全に起動するまでは、電源の切断・ボタン操作・メモリーカードの挿入/取出しは行わないでください。

 スマートフォンアプリからもリセット操作ができます。



P50

ファームウェアをアップデートする

仕様変更、機能追加などにより、カメラ本体のファームウェアがアップデートされることがあります。最新のバージョンが公開されている場合は、スマートフォンまたはパソコンからアップデートしてください。

最新のバージョンは下記WEBサイトからご確認いただけます。
また、スマートフォンアプリへもアップデート通知が届きます。

<https://daction.carmate.jp/support/firmware/dc5000.html>



■スマートフォンからアップデートする

1. 専用アプリを起動し、アップデート通知があるか確認する



スマートフォンがインターネットに接続されていない、または最新のファームウェアになっている場合は左記の通知はされません。

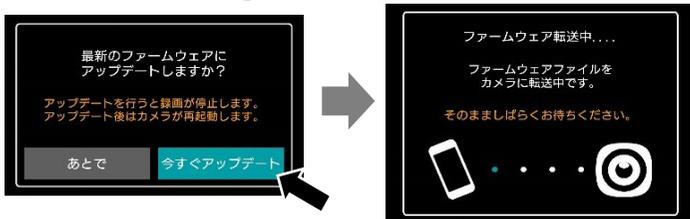
2. カメラとスマートフォンを接続する（参照：P36）



3. 専用アプリを起動し、通知の「アップデートする」をタップする



4. 「今すぐアップデート」をタップする



※スマートフォンからアップデートできない場合は、パソコンから行ってください。

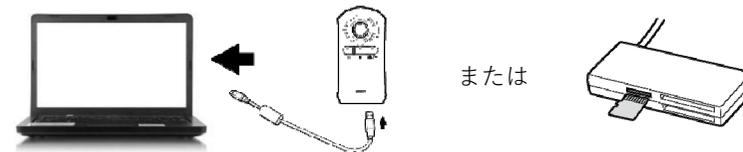
P51

ファームウェアアップデートする

■パソコンからアップデートする

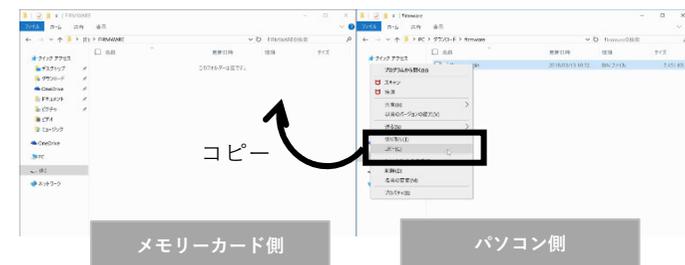
1. 下記WEBサイトより最新のファームウェアファイルをダウンロードする
<https://daction.carmate.jp/support/firmware/dc5000.html>
2. ダウンロードされたファイル（zip形式）を解凍する
3. 通信ケーブルを使ってカメラを直接接続するか、市販のカードリーダーなどを使ってメモリーカードとパソコンを接続する

注意 ●カメラ本体を通信ケーブルで直接接続する場合はキャパシタやバッテリーパックは抜き取った状態で接続してください。



4. 手順2で解凍したファイル（firmware.bin）を、メモリーカードの「FIRMWARE」フォルダに移動（コピー）する

注意 ●ファームウェアファイルの名称は変更しないでください。
●書き込み中は絶対にメモリーカードを取出さないでください。



5. ファイルの移動が完了したら、通信ケーブルを取り外すまたはメモリーカードを取出してカメラ本体に戻してください。

（次ページにつづく）

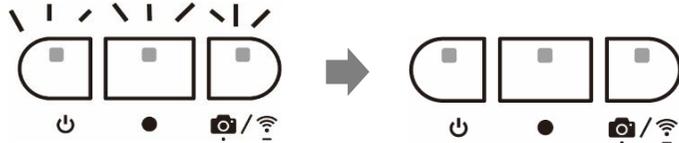
P52

ファームウェアをアップデートする

6. ドライブ/ドライブアクション/アクションモードのいずれかのモードでカメラを起動する

▲注意

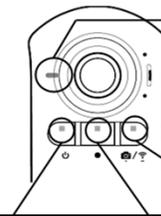
アップデート操作をすると、3つのボタン(電源、録画、通信ボタン)が赤色点滅した後にカメラが再起動します。カメラが完全に起動するまでは、電源の切断・ボタン操作・メモリーカードの挿入/取出しは行わないでください。



起動してもアップデート（赤点滅）が開始されないとき

- ボタンが緑点灯していないとき(バッテリーオプション使用時)
→バッテリー残量が不十分です。バッテリーパックを充電し、はじめからやり直してください。
- 赤点滅せずに通常起動したとき
→すでに最新のファームウェアに更新されている可能性があります。
スマートフォンアプリの「カメラ設定」>「カメラのファームウェア」の項目からバージョンを確認してください。
- バッテリー切れなど途中でアップデートに失敗したとき
→バッテリーパックを充電し、はじめからやり直してください。

LED表示内容



メモリーLED	内容
緑点灯	MANUALフォルダ残量 50~100%
オレンジ点灯	MANUALフォルダ残量 20~49%
赤点灯	MANUALフォルダ残量 0~19%/未挿入
オレンジ点滅	メモリーカードエラー

電源LED	録画LED	通信LED	内容
ドライブモード			
緑点灯	緑点灯	緑点灯	常時録画中
緑点灯	赤点灯	緑点灯	衝撃/手動録画中
ドライブアクションモード			
緑点灯	消灯	消灯	起動中
緑点灯	赤点灯	消灯	手動録画中
駐車監視モード			
緑点灯	消灯	消灯	待機(エンジンOFFから1分間)
緑点灯	緑点灯	消灯	常時録画モード・駐車常時録画中
緑点灯	赤点灯	消灯	常時録画モード・駐車衝撃録画中
緑点滅	消灯	消灯	前後録画モード
緑点滅	赤点灯	消灯	前後録画モード・駐車衝撃録画中
消灯	消灯	消灯	後録画モード
消灯	赤点灯	消灯	後録画モード・駐車衝撃録画中
アクションモード ※別売のバッテリーオプションが必要			
緑点灯	消灯	消灯	起動中
緑点灯	赤点灯	消灯	手動録画中
共通			
-	-	緑点灯	無線LAN ON
-	-	緑点滅	通信中
-	-	赤点滅 (1回)	静止画撮影
オレンジ点灯	消灯	消灯	バッテリーパック充電中
消灯	消灯	消灯	バッテリーパック充電完了/電源OFF
緑点灯	消灯	消灯	PC通信モード
オレンジ点滅	オレンジ点滅	オレンジ点滅	リセット中
赤点滅	赤点滅	赤点滅	ファームウェアアップデート中
オレンジ点滅	-	-	電源エラー
-	オレンジ点滅	-	録画エラー
-	-	オレンジ点滅	通信エラー

故障かなと思ったら

<p>電源が入らない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ●付属品以外のケーブルを使うと正しく動作しません。付属の電源ケーブルを使っているか確認してください。 ●カメラ本体が高温・低温になっていないか確認してください。動作温度範囲（-10～60℃）を超えている場合は、カメラ本体を温度範囲に戻してから再度電源を入れてください。また、サンシェード等の日除けを使用する際は、熱がこもりやすくなるため、カメラ本体をフロントガラスとサンシェードの間に挟み込まないように設置してください。 ●駐車監視スイッチがONになっているか確認してください。OFFになっている場合は、一度エンジンをかけ、駐車監視スイッチをONに切り替えてください。 ●駐車監視ユニットのヒューズが切れていないか確認してください。 ●一度カメラ本体からキャパシタを抜き、再度差込み、電源をONにしてください。
<p>エンジンをかけているのに、電源が切れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アースの取付けを確認してください。アースボルトが塗装されている、またはボルトと端子の間に樹脂などを挟み込んでいると正しく電源供給できません。また、オーディオやナビゲーションなど他の電装品と同じボルトにアース取付けすると、機器が誤作動したり、オーディオ等のメモリーが消失するおそれがあります。
<p>記録される時刻がおかしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各フォルダおよびファイルの作成日時、更新日時は世界標準時刻で記録されます。専用アプリで再生すると、再生端末で設定されたタイムゾーンの日時で表示されます。
<p>スマートフォンで「インターネットが見つかりません」と表示される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラがインターネット接続機能を持っていないため、表示されます。（Android端末など一部の端末では、カメラ接続中は、スマートフォンでインターネットに接続できません。）

<p>スマートフォンで「dAction360」から始まるSSIDが表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラ本体の無線LANがON（ ボタンが緑点灯）しているか確認してください。 ●スマートフォンの「Wi-Fi」を一旦切り、再度ONにしてから少々お待ちください。
<p>カメラに接続できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンの「Bluetooth」がOFFになっているか確認してください。 ●他のスマートフォンと接続されていないか確認してください。 ●専用アプリを一旦終了してからスマートフォンの「Wi-Fi」をOFFにした後、再度ONにして接続を確認してください。それでも接続できない場合は、登録したSSIDを削除し、再度P.36の手順1からやり直してください。 ●駐車監視モード中や、パソコンと接続している場合はカメラに接続できません。
<p>エンジンをかけたのに、カメラの無線LANがONにならない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ●付属品以外のケーブルを使うと正しく動作しません。付属の電源ケーブルを使っているか確認してください。 ●ドライブアクションモードで起動する時は、無線LANは自動でONになりません。起動後、 ボタンを長押ししてください。
<p>レンズ横のメモリーLEDがオレンジ色点滅している</p> <p> MEMOリー LED</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンを接続し、カメラ本体または専用アプリからメモリーカードのフォーマットを行ってください。 ●それでも直らない場合、カメラをリセットしてください。（P50参照）
<p>「SDカードを確認してください」という音声が出た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●読み書き速度の遅い規格のメモリーカードが差込まれているか規格表示の無いメモリーカードが差込まれています。専用microSDカード（DC3/4/5）をご使用ください。

故障かなと思ったら

<p>「SDカードが見つかりません」という音声が出た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●メモリーカードが挿入されているか確認してください。 ●メモリーカードが破損している場合は、メモリーカードを交換してください。
<p>「容量一杯です」という音声が出た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カードフルエラーです。メモリーカード内の手動録画ファイルまたは静止画撮影ファイルを削除するか、メモリーカードをフォーマットしてください。
<p>「フォーマットしてください」という音声が出た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●フォーマット推奨期間が経過しました。カメラ本体またはスマートフォンアプリからメモリーカードフォーマットを行ってください。(P49参照) <p>なお推奨期間はエンジンの始動回数と走行距離の累積からカウントされる仕様になっております。</p>
<p>カメラの振り角度を変えたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●付属の六角レンチでマウントのネジをゆるめ、振り角度を調整してください。調整後に本締めするときは、六角柱側（短い側）を使ってください。
<p>エンジンOFFの状態ですら駐車監視モードに切り替わらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車監視スイッチがONになっているか確認してください。OFFになっている場合は、一度エンジンをかけ、駐車監視スイッチをONに切り替えてください。 ●付属品以外のケーブルやソケットを使うと正しく動作しません。付属の電源ケーブルを使っているか確認してください。 ●電圧監視機能が働き、車両バッテリーの電圧が本製品の設定値より下回っている可能性があります。設定値の変更またはバッテリーの交換、バッテリー充電をお試しください。

仕様

品名	ダクション 360 S 駐車監視SD32GBセット	
品番	DC5001DT	
画角	水平：360° 垂直：360°	
撮像素子	1/2.3型裏面照射型CMOSセンサー	
有効画素数	約2706万画素	
記録画素数	全天球＋フロント： 2880×1440（約410万画素）＋1920×1080（約200万画素） 全天球のみ： 3840×1920（約730万画素）または2880×1440（約410万画素）	
フレームレート	ドライブモード：27.5/5.2fps（※高温動作時は自動でフレームレート変更） 駐車監視モード：13.75/5.2fps ドライブアクションモード：29.97fps アクションモード：29.97fps	
F値	F2.0	
記録方式	常時録画、衝撃録画、手動録画、静止画撮影、 駐車常時録画、駐車衝撃録画	
電源電圧	DC12V/24V（カメラ本体：DC5V）	
消費電流	DC12V	ドライブモード：約440mA 駐車監視モード：約295mA（常時録画モード撮影時） 約10mA（後録画モード待機時） ドライブアクションモード：約420mA（撮影時）
	DC24V	ドライブモード：約220mA 駐車監視モード：約147.5mA（常時録画モード撮影時） 約10mA（後録画モード待機時） ドライブアクションモード：約210mA（撮影時）
受信可能衛星	GPS、みちびき、グロナス	
ファイル形式	動画：MOV（MPEG4-AVC/H.264） 静止画：JPEG	
対応記録媒体	専用microSDカード（品番：DC3/4/5）	
音声記録	あり（ON/OFF可能）	

仕様

再生方法	スマートフォン用アプリ（Android 6.0～、iOS 11.0～） パソコン用ソフト（Windows 10）※
外形寸法	H99mm×W131mm×D68mm（マウント装着時）
センサー	3軸Gセンサー、ジャイロセンサー
その他	無線LAN搭載、ノイズ対策済、WDR搭載
動作温度範囲	-10～60°C（駐車監視モード時） -10～40°C（ドライブ/ドライブアクション/アクションモード時）
保証期間	3年間（microSDカード除く）

※記録された映像を再生するには、スマートフォン用アプリまたはパソコン用ソフトが必要です。
ご購入前に、WEBサイトにて最新の動作確認端末をご確認ください。

https://daction.carmate.jp/support/pdf/matching_dc5000.pdf



- Android、Google Play、Google Playロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- iOS商標は、米国Ciscoのライセンスに基づき使用されています。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。



FCC ID：2AP43-CMDC5000

株式会社カーメイト
〒171-0051 東京都豊島区長崎 5-33-11

商品のお問い合わせ：カーメイトサービスセンター
TEL:03-5926-1212 FAX:03-5926-1218

FCC STATEMENT

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

- The provided shielded USB cables must be used for connection to computer or peripherals in order to meet FCC emission limits and RF interference suppression.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This transmitter must not be co-located or operated in conjunction with any other antenna or transmitter.

The available scientific evidence does not show that any health problems are associated with using low power wireless devices.

There is no proof, however, that these low power wireless devices are absolutely safe.

Low power Wireless devices emit low levels of radio frequency energy (RF) in the microwave range while being used. Whereas high levels of RF can produce health effects (by heating tissue), exposure of low-level RF that does not produce heating effects causes no known adverse health effects.

Many studies of low-level RF exposures have not found any biological effects.

Some studies have suggested that some biological effects might occur, but such findings have not been confirmed by additional research.

d'Action 360 s (DC5000) has been tested and found to comply with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets the FCC radio frequency (RF) Exposure Guidelines.

Product Name : d'Action360s

Model Number : DC5000

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- (1) This device may not cause harmful interference, and
- (2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible party : Car Mate USA, Inc.

Address : 383 Van Ness Ave Suite 1603, Torrance, CA 90501

Phone : 310-533-1647